

<b>授業科目名</b>	人体構造学 (2300102)		
<b>時間割名</b>	人体構造学 (13201)		
<b>時間割担当</b>	前田裕子		
<b>実施期</b>	前期	<b>単位数</b>	1 必修
<b>曜日・時限</b>	月・3		

### 授業の目標・概要

人体構造学は生命活動を支える人体を細胞から器官レベルの構造について理解する学問であり、生命科学の基礎となる重要な学問である。人体の正常な構造を明らかにし、人体の成り立ちや体を構成している組織と器官について学ぶ。まず、身体は細胞、組織、器官、器官系の階層構造からなる事を理解し、人体の構造を器官系に分け、それぞれの器官の肉眼的（マクロ）ならび顕微鏡的（ミクロ）な構造を理解する。人体解剖学 では、生命維持に関わる器官（循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系）について学ぶ。

### 学習の到達目標

看護を含めた医療に従事する者において、正常な人体の構造と機能に関する基礎知識の習得は、きわめて重要である。本講座はあらゆる生体学（生理学、病態生理学、病理学など）に密接に関連しているからである。よって、本講座の到達目標は、人体の基本的な構造と器官を理解し、生体学の基礎を身に付けることになる。

### 授業方法・形式

言語のみでの説明で人体構造を理解するのは極めて困難なため、写真やイラスト等を記載したパワーポイントと資料プリントを用い、講義内容を明確に説明する。また適宜に練習問題を配布して理解を深める。

### 授業計画

第 1 回	人体の構成	人体の外形と部位、細胞の構造
第 2 回	人体の構成	各種組織(上皮組織, 支持組織)
第 3 回	人体の構成	各種組織(筋組織, 神経組織)
第 4 回	循環器系	(心臓の位置と形態 刺激伝導系)
第 5 回	循環器系	(血管の構成と構造、動脈系)
第 6 回	循環器系	(動脈系)
第 7 回	循環器系	(静脈系)
第 8 回	循環器系	(リンパ系)
第 9 回	呼吸器系	(鼻腔、咽頭 喉頭)
第 10 回	呼吸器系	(肺、胸膜)
第 11 回	消化器系	(口腔、歯、咽頭)
第 12 回	消化器系	(胃、小腸、大腸)
第 13 回	消化器系	(肝臓、膵臓 腹膜の構造)
第 14 回	泌尿器系	(腎臓、尿管)
第 15 回	泌尿器系	(膀胱、尿道)

### 成績評価の基準

- ・期末筆記試験で100%評価

### 授業時間外の課題

本講義中でのレポート等の宿題は設定しない。よって受講者は、講義内容を十分に理解できるように、予習、復習を各自でしっかり行うこと。各講義の最後に次回講義内容の範囲を説明するので予習の手引きに、復習には配布した問題プリントを活用して欲しい。（本講義内容は独自の理解は習熟を要するので、講義後の復習が大事と思われる。）

### メッセージ

人体構造学には難解な語彙や覚えることが多くとつきにくいと思いがちです。まずは自分の体がどのようになっているかに興味を持って、生体学の基礎知識を知る楽しさを味わってください。

### 教材・教科書

解剖生理学（医学書院）

### 参考書

体の地図帳；高橋長雄監修（講談社）  
目でみるからだのメカニズム（医学書院）  
基本解剖アトラス(西村書店)